

## 平成29年度第1回花巻市介護保険運営協議会会議録

1 開催日時 平成29年8月24日（木）午後1時30分～午後2時50分

2 開催場所 花巻市花城町1-47 花巻市生涯学園都市会館 1階 講座室

### 3 出席者等

#### (1) 委員 15名

橋本純子委員、鎌田政子委員、伊藤成子委員、朝倉千里委員、内館憲二委員、伊藤芳江委員、高橋照幸委員、熊谷雅順委員、高橋岳志委員、高橋修委員、平澤智子委員、小木田勇輝委員、畠山良彦委員、影山一男委員、伊藤昇委員

#### (2) 欠席した委員 3名

狩野隆史委員、佐々木一広委員、藤本莞爾委員

#### (3) 事務局 9名

健康福祉部長 熊谷嘉哉、長寿福祉課長 佐藤拓史、健康づくり課長 及川牧雄、長寿福祉課課長補佐 松田隆、同課課長補佐 久保田和子、同課高齢福祉係長 齊藤光政、同課包括支援係長 高橋朱里、同課介護給付係主任主査兼係長 佐藤ひとみ、同課介護認定係長 有戸裕美子

#### (4) 傍聴者

なし

#### (5) 報道関係

岩手日日新聞社花巻支社 1名

### 4 協議事項

#### (1) 介護保険の運営状況について

- ① 介護保険事業計画の実施状況について
- ② 地域密着型サービス基盤の整備について

#### (2) 第7期介護保険事業計画の策定について

- ① 制度改正及び国の基本指針について
- ② 計画策定スケジュールについて
- ③ 日常生活圏域ニーズ調査の結果について

### 5 会議内容は、次のとおりである。

#### (1) 開 会 （松田補佐）

ただいまから平成29年度第1回花巻市介護保険運営協議会を開催する。委員各位には、大変お忙しい中ご出席賜り、感謝申し上げます。

## (2) あいさつ（熊谷健康福祉部長）

本日は、平成 29 年度第 1 回花巻市介護保険運営協議会に委員各位にはご多用の中ご出席賜り感謝申し上げます。この運営協議会は、花巻市介護保険事業計画の推進並びに介護保険事業の運営に関して、様々なご意見をいただく場である。現在、介護保険については、第 6 期介護保険事業計画の期間中であり、29 年度が最終年である。おかげさまを持って、計画に基づき概ね順調な推移をしているところである。また、期間内に予定している施設整備についても、地域密着型の特別養護老人ホームが 2 施設、認知症高齢者グループホーム 2 施設、看護小規模多機能型居宅介護施設 1 施設ということで、すべて事業者が決定し、現在施設整備を行っている。うち特別養護老人ホーム 1 か所は、すでにスタートしている。本来であれば昨年度中に完成したいところであったが、残念ながら国の補助金の交付事務関係が遅れ、本年度になった次第であるが、今年度内にすべて完了する予定である。今年度中に開所し、新たな施設においてサービスを実施していただけるものというふうに思っている。また、次の第 7 期の計画については、来年度から三か年ということで、只今さまざま調査を実施しながら計画策定に向けた準備を進めているところである。本日は介護事業計画策定ということで、私どもの策定スケジュールに基づいて、順次委員各位にお示しし、ご協力を賜りながらご意見をいただきたいと思っている。

今年度、第 1 回目の協議会ということで、介護保険の運営状況と次期計画の策定ということで協議をさせていただくので、よろしくご審議のほどお願い申しあげる。簡単ではあるが開会の挨拶にかえさせていただきます。

## (3) 会長あいさつ（影山会長）

本日は、お忙しい中この会議にご参集いただき感謝申し上げます。私自身、母親が茨城県に 1 人で住んでいる。今年の夏、お盆のため帰省した際、ケアマネジャーと色々と相談し、家のトイレの改修や、杖をレンタルすることの計画をしていただいた。このような介護保険にかかわる事業は非常に重要な自治体の事業だと、身近に感じている。私もそう遠くない将来、介護サービスを直接受けることになるかと思うが、ぜひ、この協議会で委員各位から知恵をいただき花巻市の介護保険事業は非常に素晴らしいものになるようお知恵をいただきたい。

## <出席状況の報告>（松田補佐）

協議に入る前に本日の出席状況を報告する。委員 18 名中出席した委員 15 名である。花巻市介護保険運営協議会規則第 5 条第 2 項の規定により、委員の過半数以上の出席をいただいているため、本会議は成立することを報告する。それでは、協議に移らせていただく。

会議の議長は、規則第 4 条第 2 項の規定により会長をお願いすることになっているため、影山会長よりお願いしたい。

## (4) 協議（影山会長）

それでは、次第に沿って 4 協議に移る。資料に基づきまして、議題(1)介護保険の運営状況についての①介護保険事業計画の実施状況について、②地域密着型サービス基盤の整備についての 2 項目を一括して事務局から説明をお願いしたい。

(1) 介護保険の運営状況について (佐藤課長説明)

- ① 介護保険事業計画の実施状況について
- ② 地域密着型サービス基盤の整備について

質疑応答

(影山会長)

ただいまの説明について、各委員からご質問があったらお願いしたい。

(高橋(照) 委員)

資料 No. 1 の 3 頁目、2 介護サービスの給付状況の (2) サービス種類別利用状況の居宅サービスの訪問介護について、平成 28 年度の計画値 19,791 人に対し実績値 14,792 人ということで、大分、低くなっている。訪問介護に携わる人材確保というものが大変難しくなっている。ホームヘルパーは、1 名の職員が家庭に入り 1 対 1 のサービス提供となる。ホームヘルパーの求人を出しても、応募者がいないという状況である。利用者の方からは、ベテランのホームヘルパーに来てほしいという要望もあり、なかなか需要と供給のバランスが取れていないという状況である。そのような中、現在花巻市にある訪問介護サービス事業者全体の中で、どれくらいの利用者の数に対応できるものなのか心配される。風の便りに聞いたが、ホームヘルパーが辞めてしまい、採用の希望を出しているが応募者がおらず、10 人いたヘルパーが 9 人になり、9 人で従来のサービス提供をしている状況があるようだ。そうすると、ヘルパーの稼働時間が増えてくれば、労働基準監督署から稼働時間が多くなってくるのは、よろしくないと指導をいただくことになる。その事業所では、対応できないということで、お断りをせざるをえない状況となる。また、1 人の利用希望者が週 3 日間サービスを利用したいと新規に申し込みいただいたとしても、その事業所で対応しきれない場合には、複数の事業者に分散して対応せざる状況になってきている。今後、ホームヘルパーサービスを利用したいという方に十分な対応ができるかどうかと不安なところである。行政として、今の事業所で十分対応が可能であるかどうか。今後、どのようにしていったらよいか。考えを伺いたい。即戦力を採用するというのは、非常に困難な現状であり、人材を育てていかなければならないという立場にあるわけだが、1 年 2 年でベテランのヘルパーが育つという訳ではないため、利用者の要望にそえない場合があり、そのような状況になりつつある。花巻市全体として、考えていかなければならない時期になっているのではないかと考えている。

(佐藤課長)

市としても大変苦慮しているところである。現在、当市における訪問介護事業所は、26 事業所で運営していただいている。市としてまだ実態把握していないところではあるが、今後の第 7 期計画策定の中においては、その辺も加味しながら検討していきたいと思っている。

(熊谷部長)

訪問介護・通所介護については、4 月から総合事業を開始し、専門職以外の方でもできる一定程度の生活支援援助については、ボランティアがサービス提供をできるという仕組みづくりをしている。しかし、これからも色々な面で地域にお願いしながら組織作りをしていただくわけではあるが、そうした中で専門のヘルパーには専門の分野に特化したサービスを、それ以外のサービスについては、ボランティアでも供給できる体系ということで、少しでも介護職の人材不足という点を考慮しながらそうした体系づくりを進めていきたいと思っている。

**(小木田委員)**

資料(2)要介護等認定者数とサービス受給者数の状況について、サービス受給者数は増加しているが、実際、職員が集まらない。看護師も不足している。施設間の取り合いもある。

介護施設には、嘱託医がいるわけだが、かかりつけ医や嘱託医の先生にみてもらわず、看護職員が休日当番医に連れていくような事例があった。自分が勤務している施設の嘱託医がわからないとのことだった。行政の立場として指導していただきたい。

**(伊藤委員)**

今年度も来年度も施設を開設するようだが、今現在、待機者が増大で、施設はまだまだ足りず作らなければならないという現状なのか。施設は建設したが、働く人材が集まらないと伺ったことがある。施設によっては、待機者が大分少なくなったという施設もあるようだ。待機者の緩和を図るため、どんどん新しい施設を作るということも重要であると思うが、施設整備が進めば、私たちの介護保険料にも影響してくるものと思う。今ある施設の充実というかそういった現状をしっかりと把握したうえで進めていただきたい。

**(内館委員)**

サービス提供数を計上しているが、サービス種別毎の従業者数について、もし把握しているのであれば、内訳を教えてください。

**(熊谷部長)**

介護職人材不足について、今年の8月頃、北上福祉教育専門学校が来庁、保育科と介護科があるが、特に介護を学ぶ生徒の入学者が減っているとお話しであった。国では介護職員処遇改善加算ということで介護職員の給与改定の支援というものもあり、そうした利用をしていただきながらと考えてきたが、抜本的な部分としては、市としてもなんらかの形でそうした介護職に向けた取り組みが必要であると感じている。実際にどれくらいの職員が稼働しているかという質問については、施設毎に職員数は動いているわけであり、何日時点というのは把握していないが、今年から各施設に指導する部門と介護保険を運営する部門を分けた。実際は、指導する部門が各施設におじゃまし、色々なお話しを伺いながら指導してまいりたいと思っている。介護職不足については、非常に重要な課題であると思っている。各施設においては、大変な現状の中、人材確保に努めながらの運営をいただき、あらためてこの場をお借りし感謝申し上げます。市としてもなんらかの形で考えていかなければならないと思っている。

**(影山会長)**

人材不足というのは、この会議で取り上げられる重要な課題である。ぜひ、奨学金を出すとか介護に携わろうとする意欲のある若い方々に手助けを与えて、花巻市の色々なところで働いていただけるようお願いしたいと思う。

**(影山会長)**

次に第7期介護保険事業計画の策定について事務局から説明をお願いしたい。

**(2) 第7期介護保険事業計画の策定について (松田課長補佐説明)**

- ① 制度改正及び国の基本指針について
- ② 計画策定スケジュールについて

## 質疑応答

### (影山会長)

ただいま事務局から①、②と説明あったが、この説明について委員の皆さま方からご意見・ご質問がありましたら出してください。

### (高橋(岳)委員)

資料 3-1 スライド④について、地域共生社会の実現に向けた取り組み推進について、今後共生社会を作っていくというテーマの中で、障がい福祉サービスと介護保険サービスの連携を密にしていきたいと思いますということになってきているのではないかと考えている。障害分野にはなるが、65歳の段階で、サービスを切り替えていくというところが、非常に難しいといつも話題になるところである。それを踏まえて花巻市として、障がい福祉計画等で取り組んでいくということを今後期待するところではあるが、花巻市として考えがあるという理解でよいか。

地域福祉計画も大事であると言われているが、今の地域福祉計画の中で、生活困窮者や自殺予防対策も進めていかれるということになっているようだ。これまでも、従前の福祉の領域だけではなく、全体的な福祉の充実や生活の包括的な考え方にもっていく必要があるのではないかと考えている。何か花巻市として考えがあるのなら教えてほしい。

資料 3-1 スライド⑤、⑥について、今後は、事業者のサービスの質の向上ということにかかわっていくのかと考えている。地域包括支援センター事業評価と有料老人ホームの入居者保護のための施策の評価の強化があるが、例えば国や県のほうでは、福祉サービスに関して「第三者評価等を推進していきましょう。」といったような流れがあるが、正直、花巻市だけではなく岩手県内でもまだまだ第三者評価の取り組みが進んでいない現状であると考えている。花巻市として問題視し、取り組んでいくといったような考えはあるか。

### (熊谷部長)

計画策定については、障がいの方も今年度障がい福祉計画、障がい児福祉計画と見直しの年になっている。いずれ、計画策定にあたっては国の方向等を注視しながら十分に連携して進めていかなければいけないと考えている。具体的な細部については、これからであるが、互いの計画策定の中で機能してまいりたいと考えている。

地域共生社会は、国が打ち出している方向性である。花巻市においても、保険福祉総合計画の中でそれぞれの分野毎に計画をまとめているが、計画策定の時期がずれて全体的に統一された計画にはなっていないため、今後の変更なり更新の時期には、そうした部分を反映し、修正していかなければならないものと考えている。

各施設の第三者評価というところだが、第三者評価ということになるかどうかということは別にし、地域密着型サービス事業所を含めて、岩手県から各施設の指導権限が順次おりてくる予定である。そうした中で、指導の対象施設が多くなることから、社会福祉法人や地域密着型介護事業所を指導する体制を充実させた。介護事業所が各施設の基準に基づいた運営を行っていただくよう、これから本格的に指導して参りたいと考えている。

### (平澤委員)

介護施設においても職員の確保が難しいということだが、これからの計画でも考えていかなければならないところだと思う。看護協会でも地域包括ケアシステムに入っており、地域連携というところで

他職種連携を進めていかなければならないが、病院の看護師は、生活拠点となる介護施設の環境を知らないというのが殆どであるため、施設職員も病院職員も相互に行き来して、その方の生活の場を知り、生活の場に戻る方の退院指導を丁寧にしていくことが重要である。そうするためには、病院職員も施設職員と連携を図っていかなければならないが、お互いに敷居が高い等との思いもあり、なかなか進まないというのが現状である。昨年度から少しずつではあるが、施設外に出て関係を築いていこうと、看護協会でも頑張っており取り組んでいるところである。職業団体もどんどん活動してほしい。お互いの職員のスキルアップを含め、入所或いは入院する時に互いに相談しあえるような取り組みになれるよう協力していきたいと思っている。

**（熊谷部長）**

まさに地域包括支援システム作りというところでは、やはり医療・介護と住まいとそれぞれが連携しながら、今のお話しのとおりに顔の見える関係を構築し、情報提供しながらうまくその方にあったサービス提供がなされるようにしていきたい。

過日開催した会議では、他職種連携ということで、市内の関係機関、医療、介護、包括支援センター、居宅ケアマネジャーにお集まりいただき、グループをわけてフリートークでさまざまなテーマについて情報交換をする場を設けた。そうした結果に基づいて、よりよい連携を進めるために推進会議を組織化し拠点機能を含めた検討を行っているところであり、一番大切なのは、顔が見えいつでもきちんと相談できる関係だと思つたため、そうした面で事業を進めていきたいと思っている。

**（内館委員）**

人材確保について、花巻市としてどの程度サービスが必要になるかとの計画を立てると思うが、施設任せにするばかりではなく、施設の現状を把握していただき、花巻市として人材を確保できるような施策を考えていただきたい。

**（橋本委員）**

第7期介護保険事業計画では、「介護離職ゼロ」に向けた取り組みがあるが、今時点で実績はあるか。サービス基盤の整備とあるが、私自身の考えでは、もっと相談窓口を充実させ、相談を聞いてあげられるような体制づくりが必要でないかと思うがどうか。

**（熊谷部長）**

「介護離職ゼロ」に向けた取り組みについて、家族を介護するために離職し、介護に専念されるという現状もあるかと思う。そういった方に対応するための施設の充実も必要であると思っている。最終的には、サービス提供体制或いは、サービス提供見込み量と全体的な介護保険料との中で判断していくことと思っている。最初に説明したとおり、そうしたさまざまな調査の中でシュミレーションしながら花巻市としての提供体制がどれくらいあればよいかということも素案として、委員各位には、今後お示しさせていただきたいと思っている。

**（影山会長）**

ぜひ計画の素案の中に、委員が要望されている人材確保等盛り込んでいただければと思っている。

**（畠山委員）**

要望である。前回3月24日開催された運営協議会では、総合事業についての説明があった。29年度の4月から実施しますとのことであったが、その進捗状況の説明がない。私は、「花巻市としてこうしたい。ここに課題がある。皆さん知恵を貸してください。」という話し合いが協議会であると思ってい

る。各現場からのご意見を頂ける場面となるよう、ぜひ、そういう協議会にしていきたい。資料も早目にいただきたい。

(影山会長)

ぜひ、その点を検討してほしい。

③ 日常生活圏域ニーズ調査の結果について (松田課長補佐説明)

質疑応答

なし

(影山会長)

今日予定していた協議はこれで以上である。皆さんありがとうございました。